

東白川村議会活動情報誌



くらしと議会

■発行 東白川村議会 ■編集 議会報編集委員会 ■住所 岐阜県加茂郡東白川村神土548 ☎0574-78-3111(代) ■URL <http://www.vill.higashishirakawa.lg.jp/> ■E-mail 507gikai@vill.higashishirakawa.lg.jp

平成22年12月17日 平成22年第4回定例会を開催

平成二十二年最終の第四回定例会は、去る十二月十七日に開会し、条例案件三件、補正予算五件(一般会計補正後の予算総額二十億四千五百六十一万六千円)、人事案件三件(固定資産評価審査委員)が上程され、同日全ての議案を同意、可決し閉会しました。また、今定例会には、五人の議員が一般質問に登壇しました。

人口対策に活路 国調人口三百二十九人減

昨年実施された五年に一度の国勢調査の村の人口は、前回と比較し、一一・八八%減少の二千五百十五人となりました。

十二月定例会には「東白川村定住促進条例」が上程され可決しました。この条例は、人口対策の一環として制定したもので、人口増加と定住促進を目的に、IターンやUターン者の住宅新築や増改築、中古住宅購入等の際に助成が受けられる制度などが盛り込まれています。

補正予算の主な内容

十二月定例会に上程された一般会計補正予算の主な内容を紹介します。

- フォレストスタイル事業 三百二十二万八千円追加
- 事業量の増加による追加等
- 福祉医療費 三百九十六万八千円追加
- 給付見込額増加に伴う扶助費の追加等
- 消防施設管理費 二百八十九万四千円追加
- 消火栓の設置費用追加

固定資産評価委員会 二氏を同意

十二月定例会では、任期満了に伴う固定資産評価審査委員の選任同意を行いました。選任同意された方は次の通りです。

- 新田 充氏(加舎尾) 新
- 熊澤 健氏(黒淵) 再
- 今井直美氏(下野) 新

「官民協働の地域づくり」先進地を視察 議員全員と村長が参加

議会総務委員会は、昨年十月十二日「官民協働のまちづくり」の先進地である長野県池田町を視察。この池田町は、面積が東白川の半分、人口、世帯数は三倍強という規模の町でした。

自助・共助・公助の 視点で地域づくり

池田町では、勝山隆之町長、立野泰議長、まちづくり推進課の担当者よりお話を伺いました。ここでは、平成十八年から自治会の充実と支援を中心に「自助・共助・公助」の視点で地域づくりを進めており、次の二つの事業を実施しています。①「池田町元気なまちづくり事業」…自治会が

第三回臨時会を開催

平成二十二年第三回臨時会が十一月二十九日行われ、専決補正二件、条例案件二件、補正予算一件を審議し、可決承認しました。

条例案件のうち一件は、職員給与に関する条例の一部改正で、前年に引き続き、一般職員の月例給、ボーナスの引き下げを行ったものです。これにより、期末勤労手当がこれまで、四・一五カ月分だったものが、三・九五カ月となりました。長引く不況の中で厳しい民間の情勢を反映した、人事院の勧告を受け入れたものです。

村有林視察を実施 議会全員協議会

村は現在三六三畝の村有林を所有し管理しています。

議会では昨年十一月十七日栗本重秋村有林管理者の案内で議員と役場幹部職員が参加し、村有林の管理状況について視察を行いました。

今回の視察は、神土新集村有林、新集作業路開設工事現場、大正洞線開設工事現場のほか、曲坂地内の買入申込山林、東ヶ洞村有林の視察を行いました。村有林は、村の大切な財産であり、これまでも有効な資産運用を行ってきました。これから、資産運用ももちろんですが、上流部に生活する者の責務として環境保全も考慮しながら維持することが重要です。

弱みを強みに変える 新しい地域づくり

また、池田町は「日本で最も美しい村連合」に加盟しています。この連合は全国で三十六町村と三地域が加盟しており、県内では白川村と下呂市馬瀬地区が加盟しています。この連合に加盟している町村は山村、高齢化、過疎といった共通の課題を抱えています。こうした課題を克服するために、池田町では「自助・共助・公助」の視点で地域づくりを進めていく方針です。自助とは、住民も行政も地域の一員として、それぞれの役割を担い、同じ目線で協働に携わることが重要になります。



質問 権加一喜議員

臨時職員について
フォレストスタイルの動向について

答弁 安江眞一村長

村の臨時職員について、正職員との判断基準を伺います。臨時職員に専門的知識が必要とされる際、費用対効果を考えると外注の方が有効である場合も考えられますが、その選択基準を伺います。もしも外注の方が有益だと判断された場合、移行する考えはありますか。また、臨時職員にUターン希望者を積極的に雇用するといった考えがあるのかも伺います。

次に、人口対策に係る、村の子供たちへの教育について三点伺います。

①子供たちへの教育と村の将来との関係について。

②Uターンを促すための教育について。

③子供のいる家族のUターン、Iターンに対して、不安のない教育の提供について。

最後に、フォレストスタイルの動向について当初の目的や目標が変わってきたのではないのでしょうか。また、独立に向けての展望と具体的なタイムスケジュールについて伺います。

一般質問

第4回議会定例会で、5人の議員から村政全般についての質問が行われました。その一部をご紹介します。

最初に正規職員と臨時職員は職務の性質、任用根拠が法的に異なっており、別々に募集し採用しています。そうした意味で判断基準というより、採用自体が異なります。次に専門的職種については必要となる知識・能力を告知し、採用しています。また、外注か臨時かの質問ですが、一長一短があり、総合的に考慮して、選択すべきと考えています。外注が合理的であると判断すれば、当然それにすべきと考えます。次に、臨時職員の採用について、就職希望者の需要があれば、臨時の柔軟性を生かした雇用対策に活用することは可能であると思います。ご指摘のとおり、子供たちの教育は大変重要です。村の将来については、現在の村を知り、将来の村を考えてほしいと思っています。次に村で育った子供たちには、一人でも多く帰って欲しいと考えますが、帰るための教育や施策も重要だと考えています。また、Uターン、Iターンの方の子供も村の子供と同様、教育についての不安はPTAや教育委員とも相談しながら進めていきます。

フォレストスタイルについては、順調にいい方向へ向かっていると考えています。また、独立のタイムスケジュールについてはもう少しお時間をいただきたいと思います。



質問 村雲辰 議員

・地域財政健全化に向けての取り組みについて

地域財政を考える場合、行財政、各家庭の家計、地場産業の安定という三つがバランスよく底上げされて、地域財政が健全化されるものと考えます。村の行財政は、節約にも努められ、実質公債費比率も改善され、財政調整基金も四億八千万円となるなど、よい方向に改善されているようですが、各家庭、地場産業の安定については、いまだ非常に厳しい状況です。

これは全国的なもので、大変難しい問題ですが、この二つの回復の見込みが見当たらないのは、今後危惧するところです。行財政が幾らよくなっても、住民や地場産業が衰退・疲弊してしまつては、地域財政が健全化されているとは言えません。仕事と収入が確保でき、安心して住み続けることができる地域を作つてこそ、持続可能な地域と呼べるわけですが、新年度予算編成時期に当たり、村長の考えを伺います。また、次年度に向けて何か具体的な取組みの準備があるのかも伺います。

質問 樋口 春市 議員

・買い物難民対策について



質問 樋口 春市 議員

・買い物難民対策について

全国では今、高齢者で日々の買い物に苦労するいわゆる「買い物難民」が六百万人以上いると言われています。村でも、高齢化が進む今日、日々の食料品や日用品の買い物が大変不便になったという方が増えていま

す。道路が整備され、美濃加茂市や中津川市へ一時間余りで行くことができ、食料品から日用品、衣類、さまざまなものがある、非常に便利になっていますが、その影響を村の商店が受け、食料品店、日用雑貨店と店

が次々と閉店となり、車に乗れない方々にとっては大変不便な状況になっていきます。今後より一層高齢化が進む中、村内での買い物を推進しつつ、住民のニーズにどのように応えていくつもりなのか、村長の考えを伺います。

質問 安江眞一 村長

スーパーができて、個人商店が無くなり、大きな量販店ができてスーパーがシャッターを下ろすといった状況が、全国で起こっていることは事実です。

中山間地に住みながら、車を持たない方々の食料品や日用品の確保をどうするか。これを自治体が生かす必要はない時期がきたと認識しています。周知のとおり村でも、役場近くの

第四次総合計画後期基本計画では、人口対策を重点課題として取り組むことになっていきます。現在、五加、木曾渡地区に定住促進住宅を二棟建設されましたが、入居者が一世代しか無い状況にもかかわらず、さらに二棟建設予定となつていきます。長引く不況で雇用が厳しい状況下では、なかなか難しいことですが、この入所申し込みについては、完成と同時に募集しているように思います。もっと早く募集を行い、村内外へ情報発信すべきだと考えます。また、人口対策をさらに推進するには、縦割りの行政の中で行うのではなく、村内定住者の結婚支援やイターン、Uターン者等への就労支援そして子育て支援の一環として医療費助成を高校生まで拡大す



質問 今井 保都 議員

・人口対策について

定住促進住宅は一棟は入居いただきましたが、まだ完成している住宅一棟が空いています。二十三年度にも二棟建設予定ですので、合計三棟となりま

す。秋の完成を目標に、ぜひとも人口増につなげたいと考えています。ただいまご提案をいただきます。真新しい住宅ですので、どうかこの募集にご協力をいただき、一人でも、家族でも入っていただけて、ぜひ住んでいただきたいと考えています。

質問 安江眞一 村長

・定住促進住宅について

日々の生活の中で子供が急に病気になる、けがをしたらといった心配があります。村では現在、月二回、時間指定で休日診療が始まりました。現在の二名体制なら、勤務体系の見直しで、休日診療の拡大も可能と考えますがいかがでしょうか。

国の高齢者福祉行政は、財源不足などから在宅介護の比率を高めようとしており、そのため訪問診療の強化や通院支援パスの運行・運営方法など検討すべき課題はたくさんあります。こうした点を踏まえ診療所運営の基本的考えについてもあわせて伺います。



質問 安倍 徹 議員

・診療所運営と休日診療の拡大について

診療所に移行して三年、さまざま要望や意見が寄せられています。過疎化が進行する中で、住民の皆さんが健康維持に強く関心を持たれることは至極当然であり、重要課題として位置づけ、取り組まなければなりません。そこで、まず外来患者数、医療損益の現状を示していただきたいと思ひます。

また、次年度は何か派遣医師を確保できたという話は伺いましたが、県の財政状況や診療所の現状から、今後も厳しい状況が予想されますが、派遣枠の確保について伺います。

法を考へていきます。子育て支援については医療費の件も、さまざまなノウハウの投与も含め、まだまだ不十分と考へていきますので、今後具休策を考へてまいります。

また、救急については、今年消防本部から最新の救急車が分遣所へ派遣されました。人員についても今後、救急救命士を派遣していただき、僻地の救急に役立てるとのお話を伺っていますので、大変心強いことと思ひます。今後とも、診療所については、村民のかかりつけ医として利用していただくことが大切であると思ひます。どうかぜひとも、小さな村でも公立の診療所があるということに誇りに思えるような診療所にしていきたいのが我々の務めであると思ひます。

◆昨年、小惑星探査機「はやぶさ」帰還のニュースには胸躍らされました。◆人は何故空を飛べるのでしょうか。物理的に説明は可能です。しかし理論だけで飛べたわけではありませぬ。自分の正しさに自信を持ち、裏付ける努力をした「ライト兄弟」が最後まで持ち続けた夢への情熱が人類に大空を自由に駆け巡る翼を与えてくれました。◆「栄光なき天才たち」(集英社)の中でメンデルはこう言っています。◆「いや、私は間違っているはずだ！ 全ての人間がなんらかの間違いを犯しているに、私だけが例外のほうではない

さ…だが、たとえ間違っているはずだとしても…正しいと思えた時に、正しいと言った行動したりしないとしたら…だとしたら…人間には、何も無いんだ！◆日本の村、世界の村にするためには、その信念、研究と努力。そして何よりも可能性を信じ続ける勇氣が必要です。その先に生活の安定、豊かな暮らし、元気で明るい未来が必ず待っていると思ひます。◆一九〇三年十二月十七日に人類初の有人動力飛行が成功するまで、人は空を飛ぶことすら無理だと言われていました。

議員のひとこと

文責：桂川一喜